

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日  
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30  
例会場 勝山市市民交流センター  
〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地  
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760  
URL : https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama  
Email:katsuyamarc@gmail.com  
■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子  
編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ

～ 縁（えにし）  
を継なぐ ～



第3114回 例会 (2月24日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



皆さん、こんにちは。  
この3連休、地元・勝山では勝山左義長まつりが開催されました。  
太鼓の音、櫓の熱気、そして通りにあふれる笑顔。私はこの祭りを通じて、ようやく「春の訪れ」を実感いたしました。

新聞報道によれば、2日間で8万5千人の来場があったとの公式発表。普段は人通りも少ない通りに、これだけの人が集う光景は圧巻でした。

期間中は角界関係の方も訪れ、さらに元バレーボール日本代表の三屋裕子さんが帰省されていたとのこと。

そして私自身も櫓の下で、バドミントン世界トップクラスの山口茜選手とお会いする機会をいただきました。

さらには、私が懇意にしているプロレス団体の若手選手も勝山を訪れてくれました。

改めて感じたのは、左義長まつりは単なる伝統行事ではなく、「非日常の出逢いを生む場」へと進化しているということです。

人が集い、語らい、世代を超えて交わる。そこに新しい縁が生まれ、通りが、そして地域が元気になる。ロータリーもまた例会という“日常”の中に、新しい出逢いと化学反応を生む場でありたい。祭りの熱気をエネルギーに変え、春のスタートを切ってまいりましょう。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○理事会議事録をご確認ください。

●委員会報告

●SAA

織田 昌弘

3月の会場設営はCグループです。よろしくお願いいたします。

●出席報告

山内 智子

2月24日	欠席4名	80%
2月17日	欠席4名	80%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

沢櫓 作り物3位になって

笠松誠一

会員のコーナー

山内智子会員

アサヒフードの季節イベント商品をご紹介します

ちょっと会社の宣伝になって申し訳ないですが…  
新入会員卓話で少しお話させていただきましたイベント商品のご紹介をさせていただきます。  
弊社では、学校給食、一般家庭や事業所へのお弁当だけでなく、季節にちなんだ商品も製造、販売、配達をしています。

3月 お赤飯  
ぼたもち  
小豆のみや小豆2ヶ、きな粉1ヶなどの組み合わせも出来ますよ！

7月 うなぎ  
生のうなぎを一度蒸し、炭火でふくら焼き上げます。うなぎのタレは骨から出汁をとり作っています。タレだけでご飯が進みます！

9月 おはぎ  
北海道産小豆を使用。甘さ控えめのあんこは毎年大好評で小豆のみのお客様が aumentando います。

かに飯  
かに身をゆでた出汁を加えてご飯を炊いています。かに身をたっぷりとのせたかに飯です。

12月 クリスマスチキン  
ローストチキンとフライドチキンの2種類をご用意しています。今年はミニケーキ(チョコ&いちご)セットも大好評でした

1月 おせち料理  
お正月にはおせち料理ですよね！毎年内容を変えているのは大変ですが、フタを開ける時のワクワク感を大切にしています。千支の練り切りはお子様にも大人気です！

2月 恵方巻  
七福巻、サラダ巻、ソースカツ巻をはじめ、今年初のネギトロ巻を販売しました。極太のネギトロ巻は食べ応えもあり来年も販売決定です!?

左義長巻  
短冊を玉子焼きで作れないかな?と社員と一緒に試作を重ね、昨年完成した短冊玉子焼き。左義長の2日間限定でお客様、道の駅にて販売しています。

他にも『たこ焼き』『山菜おこわ』『ミニよもぎ大福』『海鮮バラ寿司』秋祭り用に『笹寿司』『昆布巻』『里芋の煮っ転がし』などを販売しました。会員の皆様にお声掛けして買っていただきたいのですが、小心者の私なので(?)皆様からのお声掛けお待ちしております。お知らせまでに3月は3/10(火)お赤飯・3/19(木)ぼたもち となっております☺

本日 プログラム	ゲスト卓話 吉川 壽一 氏	3月3日 プログラム	ゲスト卓話 シルバー人材センター 四谷 昌則 氏	3月10日 プログラム	ゲスト卓話 (株)パシオン 前田 千聡 氏	3月17日 プログラム	ゲスト卓話 日本生命福井支社
-------------	------------------	---------------	--------------------------------	----------------	-----------------------------	----------------	-------------------

## ゲスト卓話

## 勝山の教育の向かうところ

勝山市教育長 油谷 泉 氏



皆さんこんにちは。勝山市教育長の油谷です。「今日は勝山の教育のむかうところ」と題してお話をさせていただきます。私の思いをお話するとなると1時間はかかってしまいますので、今特に大事に思っていることをお話しさせていただければと思います。

## 【現状認識（人口・高齢化・学校規模）】

勝山市は人口減少と高齢化が全国より約20年先行して進行している状況です。

2024年12月末の人口は20,688人で、2025年には2万人割れが迫っています。高齢化率は38.8%に達し、小学校は9校計871人、中学校は3校計478人で、学年・学校あたりの児童生徒数が著しく減少しています。小規模校では入学者数が2~3人の事例も複数確認され、教育環境の持続性が課題です。

勝山市内には完全複式学級の小学校が3校存在し、学校再編検討の重要な指標となっています。

複式学級とは、2学年を1クラスに編成して共同で学習する形態です。具体的には1・2年、3・4年、5・6年をそれぞれ一つの学級とする形です。

## 【出生動向と将来見通し】

年間出生数は減少基調で、令和5年度に初めて100人を下回り、直近では86人、76人、2025年1月末時点で71人となっています。妊娠届からの見込みでは年度末80人程度と推計されています。出生数は小学校入学者数に6年後反映されるため、今後さらに小学校規模が縮小する見通しです。

## 【主要データと課題の根拠（若者意識の実態）】

日本財団2024年調査では、18歳の人生の目標・方向性（63.0%）、行為の目的・意味（62.8%）、将来の夢（60.1%）が低水準で、自己有用感・自己肯定感や主体性・当事者意識の弱さが示されています。

内閣府令和5年度調査でも「自分自身に満足している」割合が主要国より顕著に低いことが確認されています。

福井県高校生調査では、地域愛着・貢献意欲が高い生徒ほど県内居住意向が高まる傾向が示され、地域連携型探究が愛着・誇り・貢献意欲の向上に寄与することが確認されています。

## 【中心概念の定義（主体性・当事者意識）】

主体性とは、自分で考える、判断する、決める、行動に移す、自己責任を負う力の総体です。

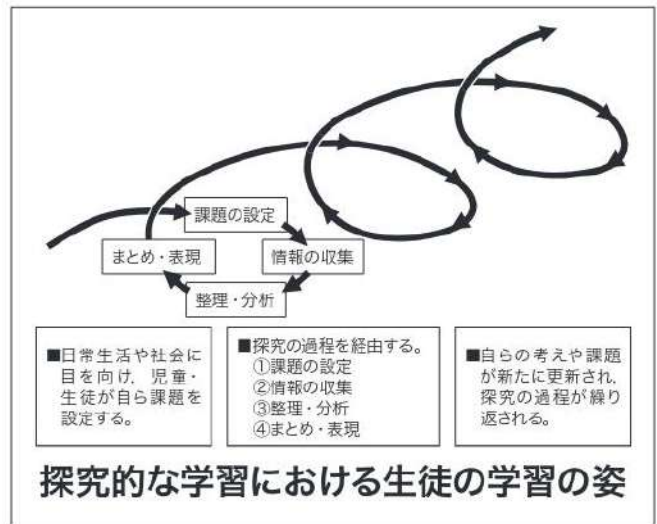
当事者意識とは、意見の相違を相手の立場で理解・尊重し、共通目的を対話で見出し、目的実現のために協働する姿勢です。

これらは教科書中心の受動的学習では育ちにくく、挫折や協働、対話、実践を通じた経験学習で涵養される資質・能力です。

【新しい考え方やアプローチ（段階的再編と地域連携型探究）】

勝山市は中学校統合を先行し、運営のプロトタイプを確立した後に小学校の在り方を検討する段階的アプローチを採用します。

教育内容面では、教科横断の探究学習と地域連携型キャリア教育を核に、一次情報のフィールドワーク、対話・協働、自己表現を重視します。AI時代に対応し、定型業務に依存しない自律的意思決定力を育てます。



## 【組織のミッションや理念との関連】

教育行政のミッションは、地域の実情を直視しながら子どもの学びの質と機会均等を守ることです。

勝山中学校（令和9年4月開校予定）は市の教育の中核として、小中高の接続を牽引し、恐竜・地質・文化などの地域資源と探究学習を結びつけます。

主体性・当事者意識の育成を、ふるさと勝山への愛着・誇りの形成と統合し、学びの社会実装を推進します。

## 勝山中学校がめざす生徒像 4つのC

- 1 何事にも自信を持って粘り強く挑戦し学び続ける生徒  
Challenge
- 2 多様な他者と協働し主体的に考え行動する生徒  
Collaboration
- 3 自分と他者のよさを認め尊重し関わり合う生徒  
Communication
- 4 自分らしい生き方を考え将来をデザインする生徒  
Career

